

プログラム	地域共生共育プログラム定着事業（ともとも PG）		
実施者	対馬市立西小学校（3・4年生13人）、社会福祉法人梅仁会 養護老人ホーム丸山、対馬市社会福祉協議会		
関係機関	峰地区民生委員児童委員協議会、峰地区ふれあい学習推進協議会、対馬市老人クラブ連合会峰支部 日本パラバドミントン連盟		
実施期間	令和7年5月20日～令和7年11月13日	科目等	総合的な学習の時間 (計13コマ ※1コマ45分間)
事例の概要	地域を知り、多様な人々（高齢者、パラスポーツ当事者、地域住民）との交流を通じて「自分たちにできること」を考え実践する福祉教育プログラムです。	事業費	0円 ※対馬市社協が同校に指定した福祉推進校指定事業助成金を一部活用
実施した背景	多様性について考え、生活や地域の課題に気づき、行動できる児童を育てることが求められていました。子どもを通じて住民を巻き込み、助け合いのあるまちづくりを進めることを目的としました。	目的の達成状況	児童が「優しさ」を学び、地域の一員としての自覚を持つに至りました。先生からも「5月からの継続的な協力が、子どもたちの深い学びにつながった」と高い評価を得ています。
発案者	<input checked="" type="checkbox"/> 社協 <input checked="" type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 行政 <input checked="" type="checkbox"/> 社会福祉法人 <input type="checkbox"/> その他（ ）	発案時期	令和7年4月頃
関係者	社協2人、学校1人、施設3人 その他9人（上記関係機関の関係者）	協議時期	令和7年5月20日 令和7年8月28日
導入準備	① 期間 令和7年5月～令和7年8月 ② 関わった人 6人 <input checked="" type="checkbox"/> 社協 <input checked="" type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 行政 <input checked="" type="checkbox"/> 施設 <input type="checkbox"/> その他（ ） ※詳しい情報は、こちらから 地域共生共育プログラム定着事業（ともとも PG）（導入準備）		
体験（概要）	令和7年5月30日に講話と車いす体験、6月10日に高齢者施設の見学と介護機器の利用体験を行い、福祉への関心と当事者理解を深めました。 ※詳しい情報は、こちらから 地域共生共育プログラム定着事業（ともとも PG）（体験）		
実践（概要）	7月の七夕まつりやパラスポーツ交流、9月のオンライン敬老会、地域住民とのグラウンドゴルフ交流を実施。「ふだんのくらしのしあわせ」を我が事として捉える活動を展開しました。 ※詳しい情報は、こちらから 地域共生共育プログラム定着事業（ともとも PG）（実践）		
所感（概要）	児童は「挨拶やお手伝い、ボランティアをしたい」という意欲を持ち、「自分も支える側になれる」という前向きな気持ちを醸成できました。 学校外へ視野を広げ、地域住民とのつながりを構築できたことが大きな成果です。 ※詳しい所感は、こちらから 地域共生共育プログラム定着事業（ともとも PG）（所感）		
リンク	対馬市立西小学校・社会福祉法人梅仁会 養護老人ホーム丸山・対馬市社会福祉協議会（リンク） ※HPや広報誌等事例の参考になるもの。		

地域共生共育プログラム定着事業（ともとも PG）（導入準備）＜対馬市社会福祉協議会＞

① 期間 令和7年5月 ～ 令和7年8月

② 関わった人 7人 社協 学校 行政 施設（養護老人ホーム丸山）
 その他（ _____ ）

③ 導入準備内容・スケジュール

期日	内容等	備考(場所等)
5月20日	第1回関係者打ち合わせ 出席者：西小教員、丸山職員、社協職員 (協議内容) ・学習内容の共有、年間プログラム確認	養護老人ホーム丸山
8月28日	第2回関係者打ち合わせ 出席者：西小教員、丸山職員、社協職員 (協議内容) ・2学期以降の役割分担や具体的プログラムの協議	養護老人ホーム丸山

④実施計画

・多様性への理解を深め、地域の課題に気づき、主体的に行動できる児童を育てることを目指す。

・子どもを通じて地域住民を巻き込み、助け合い・支え合いのあるまちづくり（心のバリアフリー）を推進する計画とした。

期日	内容等	備考(場所等)
1学期中 5～7月 (2コマ)	・ふくしの講話行う ・高齢者等の体験を行う ※市内の介護施設にも協力を依頼 ・感想や気づきを共有する ・ボランティアの講話を行う	西小学校
7～8月	・ボランティアを体験する	管内の介護施設に協力を依頼する
2学期中 9～11月 (1コマ)	・地域の方々と交流する (グラウンドゴルフ等)	老人クラブ 民生児童委員など
2学期以降 12月～ (1～2コマ)	・ボランティア体験や地域の方々と交流して新たな気づきを共有する ・授業参観や集会等で発表する	

地域共生共育プログラム定着事業（ともとも PG）（体験）＜対馬市社会福祉協議会＞

① 日時 令和7年5月30日、令和7年6月10日

② 場所 対馬市立小学校

③ 関わった人 7人

（ 社協 学校 行政 施設（養護老人ホーム丸山職員）

その他（ _____ ）

④ 活用した機材・準備物

・ 車いす ・ 介護用機器 ・ PC ・ プロジェクター ・ スクリーン

⑤ 内容

期 日	内 容	備考(場所等)
1学期中 5～7月 (3コマ) 5月30日	<ul style="list-style-type: none"> ・ふくしの講話行う ・高齢者等の体験を行う 車椅子、アイマスク、車椅子：丸山職員 ・感想や気づきを共有する 	西小学校

5月30日:「ふくしとは何か」を考える講話と、車いす体験を実施。施設訪問前に児童の関心を高め、当事者の生活を想像する機会とした。



期 日	内 容	備考(場所等)
6月10日 (3コマ)	施設見学、顔合わせ	養護老人ホーム丸山

6月10日:施設見学と機器の利用体験。入所者との顔合わせを行い、施設での実際の生活環境を学んだ



地域共生共育プログラム定着事業（ともとも PG）（実践）＜対馬市社会福祉協議会＞

① 日時 令和7年7月2日～令和7年9月26日

② 場所 対馬市立西小学校、養護老人ホーム丸山

③ 関わった人 16人

（ 社協 学校 行政 施設（養護老人ホーム丸山）
 その他（地域住民（7人、日本パラバドミントン連盟（2人）））

④ 活用した機材・準備物

競技用車いす、七夕飾り、グラウンドゴルフ用具

⑤ 内容

月 日	行 事 名 等	備考(場所等)
7月2日	施設入所者との交流①（七夕まつり） 児童からの発表、遊びを通じた交流 交流、体験を通じた、当事者の理解を深めた	養護老人ホーム丸山
7月15日	当事者との交流 （バドミントンスクールキャラバン） 交流、体験を通じた、当事者の理解を深めた	西小学校 日本パラバドミントン 連盟（島田氏、細矢氏）
9月12日	施設入所者との交流② （養護老人ホーム丸山敬老会）	オンライン
9月24日	地域の方々との交流 （グラウンドゴルフ） 多世代との触れ合いを通じて「自分たちも地域の 一員である」という自覚を促した	西小学校
11月13日	学習発表会 介護施設での体験や地域の方々との交流を通 して新たな気づきやその成果を報告	西小学校
12月16日	施設入所者との交流会③ （養護老人ホーム丸山クリスマス会）	養護老人ホーム丸山

7月2日：施設入所者との交流①（七夕まつり）



7月15日：当事者との交流（パラバドミントン体験を通じた当事者理解）



9月12日：施設入所者との交流②（養護老人ホーム丸山敬老会）

※新型コロナウイルスの拡大の懸念から、オンライン配信に切り替え



9月24日：地域の方々との交流（グラウンドゴルフ）



11月13日：学習発表会



12月16日：施設入所者との交流会③（養護老人ホーム丸山クリスマス会）



1、 所感

・対馬市立西小学校担任の先生から

たくさんの方々と接し、一緒に活動（交流）することで、子どもたちは一番に優しさを学ぶことができた。どのような声掛けをしたらよいか、どんなことに気を付けたらよいか、どんなことをしたら喜んで笑顔になってもらえるか、色々なことを考え活動を行った。養護老人ホーム丸山で施設見学ができたことで、高齢者を助ける道具がたくさんあることに気づき、高齢者が安全に生活できる工夫やそこで働く方々の思いや努力を知ることができた。また、地域の方々とグラウンドゴルフで交流ができ、地域と学校をつなぐ一手段にもなったことを実感できた。学校外に視野を広げ、人と接する事、相手の気持ちををはかることにつながったと思う。

児童は多様な人々と活動を共にすることで「優しさ」を学び、相手の気持ちををはかる姿勢が身についた。

アンケートでは児童の93.6%が「地域福祉活動をしたい」と回答しており、非常に高い意欲向上が見られた。

また担任の先生からも「5月からの継続的な協力が深い学びにつながった」との評価を得ている。

2、今後の取り組みについて

11月13日の学習発表会にて、ボランティア体験や交流で得た「新たな気づき」を地域や保護者へ発信した。

今回の実践事例をモデルとして、学校・施設・住民が「丸ごと」つながる環境づくりを継続できるよう、これまで対馬市社協でも取り組んできた、「ふれあい学習推進事業」などの福祉教育推進事業も活用しながら、地域共生社会の実現に向けた「種まき」を全市的に広げていきたい。